

researchmapを用いた学術コミュニティの運用

北極環境研究コンソーシアムにおける事例

Operation of the academic community with the researchmap

Case study of the Japan Consortium for Arctic Environmental Research (JCAR)

*照井 健志¹、井上 康¹、三好 三美¹、兒玉 裕二¹

*Takeshi Terui¹, Yasushi Inoue¹, Mimi Miyoshi¹, Yuji Kodama¹

1. 国立極地研究所

1. National Institute of Polar Research

北極環境研究コンソーシアム(JCAR)は、北極に関わる様々な分野の研究者が協力して立ち上げたネットワーク型組織である。JCARの会員数は約400名で中小規模の学術コミュニティと同等の規模になっている。すでに会員同士のコミュニケーションを取ることが困難になっており、ネットワーク型組織としてコミュニケーションツールを模索していた。様々なツールを比較を行い、researchmapを選定した。2014年10月よりresearchmap上にJCAR専用のコミュニティを作成、現在まで運用を行っている。researchmapを利用することで、以下の機能の提供に成功している。

- ・メールニュースの配信(メーリングリストからの脱却)
- ・電子投票
- ・ファイル共有
- ・JCAR会員同士の情報共有

本発表では、researchmapを利用した学術コミュニティの運用に至るまでの経緯と、実態について紹介を行い、他の学術コミュニティへ情報共有を行うものである。

キーワード：ソーシャルネットワークサービス、コミュニケーション、リサーチマップ

Keywords: Social Network Service, Communication, researchmap